げんきな子　がんばる子　やさしい子

園だより

１０月号
北区立さくらだこども園
園長　西澤尚子

体力

ここ何日か、5歳児が園庭の草むらでコオロギやバッタを捕まえては、歓声を上げ友達と見せ合っています。その勢いで、少し前まで聞こえていた虫の音はぱったりとしなくなる、という秋の自然の様子が職員室にいても感じられます。今年の9月は暑さよりも雨がちで、なかなか爽やかな空の下、とはいきませんでしたが、雨の合間を縫って子どもたちは戸外で思い切り遊んでいます。

今年度、９月から１０月にかけて、さくらだこども園では運動能力測定(２５ｍ走、立ち幅跳び、両足連続飛び越し、ボール投げ、補球、体支持持続時間)を実施しています。運動能力測定ですので、練習のようなことはしないで測ることになっていますから、幼児によっては初めてする動き、というものもありました。子どもたちが楽しんで取り組めるように、遊びのコーナーの一つとして場を設けたり、友達が応援できるようにしたり、競い合って力が発揮できるようにしたりしました。そして、測定後も場を残しておくと、「さっきより頑張れる！」とどの種目も、また自分から取り組む幼児がいました。その姿を見て友達が集まってきたり、応援したりする様子もありました。教師としては、後の記録を残したいとの思いもありましたが、それよりも子どもたちがいろいろに体を動かすことを楽しめるようになることの方がうれしい、と思いました。自分の体を動かしてみてその動き方が分かり、分かると何度も試したくなり、自分なりに前より頑張れたと思うともっと繰り返したくなります。多様な動きを繰り返すことで、体の動きがスムーズになり、体力もついていきます。

生活するにも、物を考えるにも、体力は大事だと考えます。体が弱っていると何かをする気力が湧いてこない、という経験は大人でもあるのではないでしょうか。

さくらだこども園では、10 月に運動会を実施します。多様に体を動かす楽しさを感じて、自分の力を発揮したいという意欲が膨らむようにと願って取り組んでいきます。「できる」ではなく「する」楽しさを心にもっていてほしいと願っています。そのためには、今の姿や結果だけを取り上げて、子どもの気持ちを、体を動かすことから離れさせるような言葉を口にしないことも、大人の役割だと考えます。幼児にとって身近な大人の言葉は大きな影響を与えます。特にマイナスな言葉は大人にとっては深い意味が無くても、幼児の心に深く、長く刻まれます。

保護者・地域の皆様には、運動会を暖かく見守っていただき、一緒に楽しんでいただければと思います。そして、子どもたちの精一杯の表現を受け止め、よさを伝えていただければと思います。

さくらだこども園の運動会には、地域で子どもたちを見守ってくれている方々にもご案内を出しています。地域で育つ子どもとして、成長の姿を一緒に喜んでいただき、また、子どもたちが安心して生活できるように様々な場面で支えていただいています。このつながりを、子どもたちにも大切に心に留めてほしいと考えています。



―今月の指導のめあて―

〈４歳児〉
- 教師や友達と一緒に伸び伸びと体を動かしたり、自分のしたいことを繰り返し楽しんだりする。
- 学年や学級のみんなで活動することを楽しむ中で、運動会を楽しみにする。
- 葉や木の実など、園庭の自然に触れ、季節の変化を感じたり、遊びに取り入れたりする。

〈５歳児〉
- 遊びの中で、友達と思いや考えを出し合い、イメージを共通にしてのびのびと表現することを楽しむ。
- 運動遊びやルールのある遊びを楽しむ中で共通の目標をもち、友達と力を合わせて取り組んだり、自分の力を発揮したりする。